

活動報告書

報告者氏名： 小林美智子 所属： 日田支援学校 記録日： 2013年 2月 20日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部1年 女子

・ 障害名

知的障がい、レット症候群

・ 障害と困難の内容

日常生活において全介助を要する。側わん、下肢に麻痺があり、車椅子での移動。

両腕はある程度動かすことはできるが、指先の細かな動きは難しい。

ゆっくりな動きの物に対しては追視できるが、早い動きの物に対しては難しい。

【活動目的】

・ 当初のねらい

自分から手を伸ばそうとする自発的な動きを、さらに増やしたいと考えていた。

絵本やキーボードなど、興味のあるものに対しては、自分から手を伸ばそうとする姿が見られた。そこで、iPadの、うた絵本やピアノのアプリを利用して、生徒が楽しいと思われるものを提示していこうと考えていた。

・ 実施期間

6月下旬～2月

・ 実施者

小林美智子

・ 実施者と対象児の関係

担当教員

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

- 絵本、すずなどの楽器、キーボード、小さなボールを提示すると、自分から手を伸ばそうとする。
- 絵本を側で読んだり、DVDで「おかあさんといっしょ」などを見たりすると、笑顔を見せる。
- 音楽が好きで、曲の好き嫌いもはっきりしており、好きな曲がかかると笑顔を見せたり、吹き出して笑ったりすることもある。
- 具体物を少し動かすと、具体物の方向に手を伸ばそうとする。

・活動の具体的内容

車椅子のテーブルにiPadを置き、生徒が触りやすいような角度で利用した。

『うたえほん、ぷらす』『リズムえほん』『ピアノ』『いないいない』『pocket Pond』などのアプリを利用した。

・対象児（群）の事後の変化

- 『ピアノ』は提示した当初から、自分から手を伸ばして触り、音が出ると、さらに触り続ける姿がよく見られた。



- 歌のおねえさんは好きなようで、『うたえほん』の「手あそび動画」では、笑顔で見続けた。また、『うたえほん、ぷらす』の「うた」を提示すると、自分で手を伸ばして触ろうとする姿が見られ、同じ曲でも、映像に変化があると、見続けたり、手を伸ばしたりなど、生徒の動きに変化が見られることもあった。



- 『pocket Pond』は、最初は見続けるだけだった。生徒の手を持って、何度か触ることで、このアプリを提示すると自ら手を伸ばす姿が増えた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- iPadで遊ぶ活動が増え、iPadを生徒の側に置くと、見続ける姿が見られた。本人にとって、興味のあるものになったのではないと思われる。
- 『YouTube』で「おかあさんといっしょ」などの映像では笑顔で見続け、『ピアノ』『pocketpond』などのアプリでは、最初はじっと見続け、時間が少しかかるが、自分から手を伸ばして触る姿が見られた。同じiPadでも、提示する画像によって、生徒自身が判断して、動きに変化をつけていると思われる。

・その他エピソードなど

当初は、生徒の自発的な動きを増やすことをねらいとしていた。しかし、iPadを本人が触っている時に、少し動かすと動かした方向に手を伸ばしたり、iPadを隠すと、教師の顔を見たりする様子が見られた。意思表示はしっかりできており、要求行動も見られるので、選択する力を育てていけるのではないかとこのアドバイスを受けた。実際に2つの具体物を提示していくと、目線や表情に変化が見られた。現在は、選択する力を養うこともねらいの一つとして、利用している。

以前は、活動の前に「今から～するよ」などの言葉かけで提示していたが、2つの具体物（好きなものと興味関心のないもの）を提示するようにした。「どちらがいいかな」と言葉かけをして、生徒が長く見続けた方で一緒に遊ぶようにしている。



	提示の仕方	生徒の反応	好きなもの	無関心なもの
1	同時に左右に提示し、「どっちで遊ぶ？」と言葉かけをした。	両方をちらちらと見たが、好きな物を笑顔で見続けた。	(右) iPad 好きな画像	(左) 活字のプリント
2	〃	〃	(左) iPad	(右) 活字のプリント
3	雑誌を先に目の前に提示し、その後絵本を提示	最初は雑誌をちらっと見たが、その後 iPad を見続ける。	(右) iPad 好きな画像	(左) 雑誌
4	〃	〃	(右) iPad 好きな画像	(左) 雑誌
5	両方を提示し、iPad を雑誌で隠してみる。	iPad を隠すと、教師の顔を見る。	(左) iPad 好きな画像	(右) 雑誌
6	両方を同時に提示	両方をちらちらと見続けた。	(右) iPad 好きな画像	(左) 童謡絵本
7	雑誌を先に目の前に提示し、その後、iPad を提示	雑誌をちらっと見て、iPad を見続けた。	(左) iPad 好きな画像	(右) 雑誌
8	新聞を先に目の前に提示し、その後、iPad を提示	新聞を2、3回見て、iPad を見続けた。	(右) iPad 好きな画像	(左) 新聞

現在継続中・・・本人の視線が分かりづらいこともあるので、教師が生徒の視線をはっきりと確認できるように、できるだけ2つの具体物を離して提示している。表(6)のように、本人が好きな絵本と iPad を同時に提示したときは、両方をちらちらと見続け、一方だけを見ることはなかった。また、最初に提示した左右の位置を入れ替えて提示しても、最初に見続けた方を見ている。さらに、見続けた iPad を少し隠してみると、教師の顔を見上げることが多い。教師の顔を見たときは、「これで遊びたいね。」など、言葉かけをして、遊ぶようにしている。